

令和2年度第1回高知県児童福祉審議会

- 1 日時 令和2年8月25日(火) 18:00～19:30
- 2 場所 高知県庁 正庁ホール
- 3 参加者 委員 笹岡委員、川崎委員、岡谷委員、佐々木委員、吉野委員、
福田委員、山崎正雄委員、吉田委員、新谷委員、山崎雄一郎委員、
山本委員、渡辺委員、徳弘委員、岸本委員、福島委員
- | | | |
|-----|---------|--------|
| 事務局 | 地域福祉部 | 福留部長 |
| | 地域福祉部 | 西村副部長 |
| 幹事 | 児童家庭課 | 田村課長 |
| | 健康対策課 | 岩井企画監 |
| | 障害福祉課 | 西野課長 |
| | 幼保支援課 | 戸田課長 |
| | 中央児童相談所 | 森所長 |
| 書記 | 児童家庭課 | 有岡課長補佐 |
| | 健康対策課 | 津野課長補佐 |
| | 幼保支援課 | 田中課長補佐 |

4 審議事項

(1) 委員長及び副委員長の選任について

委員長については引き続き川崎委員、副委員長については福島委員が就任する事務局案が提示され、同案のとおり承認された。

(2) 各部会委員等の選任について

各部会の構成委員、部会長及び副部会長並びに各委員会の構成委員、委員長及び副委員長は、事務局案が提示され、同案のとおり承認された。

5 報告事項

(1) 新型コロナウイルス感染症防止対策の主な取組について

(2) 日本一の健康長寿県構想（子どもたちを守り育てる環境づくり）について

(3) 令和元年度に児童相談所が受け付けた児童相談の状況等について

(4) 令和元年度の高知県における被措置児童等虐待の状況等について

各事項について、事務局から説明した後、質疑応答を行った。

[質疑意見等要旨]

(1) 新型コロナウイルス感染症防止対策の主な取組について

(委員)

ひとり親世帯臨時特別給付金について、支給すべき世帯数や申請数はどれぐらいか。

(事務局)

6月に児童扶養手当を受給している方は、基本給付分5万円等が支給される。県が支給する町村分は約1,000件、市が支給する分は約6,000件で、高知市の8月7日の支給をはじめ、全市町村で8月中に支給が完了する予定となっている。それ以外の方や、収入が減った方への追加給付分については申請が必要で、現在受付中であり、9月以降に支給となる。

(2) 日本一の健康長寿県構想（子どもたちを守り育てる環境づくり）について

質疑意見なし

(3) 令和元年度に児童相談所が受け付けた児童相談の状況等について

(委員)

虐待に至った理由、虐待を受けた期間のデータはあるか。

(事務局)

虐待の要因は、1つだけではないため、原因で分けた統計はない。結果として表れる身体的虐待などの種別での統計となる。また、期間については、どこの時点を虐待の開始日にするのかということもあり、統計はない。

(委員)

複合的な理由で起こる虐待に対して、原因を解消しないと虐待は無くならないと考えるが、どのような対策を行っているのか。

(事務局)

複合的な要因には、子ども要因、保護者要因、ストレス要因があるという研究結果がある。その要因に対しては、地域の見守り、保健部署などの関わり、行政サービス等で発生を防止しようとしているのが現状と考えている。

(委員)

新型コロナウイルスの影響で、令和2年2月、3月の虐待相談件数は多かったのか。また、8月分までのデータはあるのか。新型コロナウイルスの影響で虐待が増えるということが世界的に言われている。

(事務局)

例年6月が、梅雨の時期は親子でいる時間が長いということなどもあり、虐待相談が最も多い。令和2年2月は40件に対して、平成31年2月は52件なので、減っている。この間の総数は、若干今年度が多い程度で、あまり変わってはいないので、数字からは新型コロナウイルスによる特段の影響は見られない。

しかし、昨年度はこの時期に千葉県や札幌市で（児相の対応を問われる）大きな虐待の事件もあったので、虐待の通告が多かったと考えられるが、その昨年度と変わらない状況であることは、考慮しなければならない。

(委員)

言語発達障害等の相談件数について、平成28年度も特別児童扶養手当に係る分も含んでいるのか。また、平成28年度から令和2年度にかけて大幅に減少しているが、その理由は何と考えるか。

(事務局)

調べて後日回答する。(※)

※回答内容

言語発達障害等の相談件数について、平成28年度からは特別児童扶養手当に係る受付業務分は含んでいない。さらに、平成28年度から、外部の言語聴覚士による言語相談の件数を、療育福祉センターの相談対応件数として計上しなくなったことが減少の主な要因である。

また、令和元年度からは、これまで医療機関から依頼のあった発達検査については、療育福祉センター以外の医療機関で対応していることや、発達の遅れなど言語発達に関する相談は、児童相談所ではなく、これまでどおり療育福祉センターにて対応していることなどが要因である。

(委員)

非行相談の件数が年々減少しているが、その理由は何か。

(事務局)

非行の状況が平成20年度から前半あたりは、高知県の非行の様々な指標が全国ワースト一位の状況となっていた。そのため、平成25年度に「高知家の子ども見守りプラン」を策定し、警察・教育・福祉が連携して取組を開始した。その取組の結果と考える。

- (4) 令和元年度の高知県における被措置児童等虐待の状況等について
質疑意見なし